

島原半島ジオパークの取り組み

The Unzen Volcanic Area Geopark: A new approach of regional development through Geopark

杉本 伸一 [1]

Shinichi Sugimoto[1]

[1] 島原半島ジオパーク推進連絡協議会

[1] Unzen Volcanic Area Geopark promoting office

<http://www.city.shimabara.lg.jp/section/shokan/geopark/index.html>

1 ジオパークを目指すきっかけ

島原市、雲仙市、南島原市の3市は、連携して島原半島地域の地質資源を整備するとともに、世界ジオパークネットワーク加入の認定をめざして取り組みを進めている。島原半島は、雲仙火山や千々石断層など様々な地球科学的現象を観察できる場所があることや、これまでの取り組みが評価され、昨年10月20日、日本ジオパークの第1号に認定されると同時に世界ジオパークの候補地に選ばれた。

島原半島がジオパークを目指すきっかけの一つに、島原市が日本火山学会とともに2007年に開催した『火山都市国際会議』の成功が挙げられる。数百人の海外参加者の受入を伴う国際会議の開催は、大都市でなければ困難と考えられていたが、学術、行政、地元ボランティアの連携や、雲仙火山・島原半島の魅力的な地質資源により、会議参加者から高い評価を得た。国際会議など経験のない地方都市で、大丈夫だろうかという不安は大会の成功とともに自信に変わった。外からの目を通じて地域をあらためて見直す機会ともなった。

2 地質から見た島原半島の新たな魅力

ジオパークは、科学的に貴重で景観的にも優れた複数の地質資源がある自然公園であるが、ただ珍しい地形や景観があればいいわけではない。その中で人々がどう暮らし、どのような文化をはぐくんできたかということも重要な要素だといわれている

島原半島では、平成新山をはじめとする雲仙火山や千々石断層の断層崖など、地球が活動している証拠をいくつも観察することができる。また、火山からは、災害で多くの被害を受ける一方、素晴らしい景観、おいしい湧水や、小浜・雲仙・島原と泉質の違う温泉が楽しめるなど多くの恵みも受けている。『火山との共生』は、私たちの遠い祖先から将来の子孫にまで続く永遠のテーマである。「地質」から見ると、島原半島の新たな魅力がみえてくる。

3 ジオパークの取り組み

島原半島ジオパーク推進連絡協議会は、2008年に設立されたもので、構成員(会員)は、ジオパークの範囲にあるすべての地方自治体(島原市、雲仙市、南島原市及び長崎県)並びに目的に賛同し活動及び事業に協力できる団体として、商工・観光団体、公的団体、博物館の施設、ガイド団体、地元マスコミなどによって構成されている。

島原半島ジオパーク推進連絡協議会の中では、各自治体、学術、教育、地域内施設の担当者らによって構成され幹事会が定期的に活動している。幹事会は、ジオサイトの選定や申請書の作成などの主要事務を担当しており、ジオパークの事業計画や予算等に関する議論も行っている。

協議会としては、2008年は主に日本語申請書の作成及び英語版申請書の作成に多くの時間を割いてきたが、その他には、「ジオパークガイド」を養成するための講座を協議会が主体となり実施している。講座では、島原半島地域の地質、自然、歴史についてそれぞれの専門家を招き、座学と野外巡検を半々程度行って島原半島ジオパークを総合的にガイドできる人材の養成を目指す。この養成講座については2008年度以降についても継続的に実施していく予定としており、将来的にはガイドの質を高めるための認定制度の導入も検討している。

4 今後の課題と展望

ジオパークの特徴は、それを積極的に地域経済の活性化につなげるように求めているところにもある。だから、博物館や観察路などの整備とガイドの養成、それを計画的に行う運営組織が必要だ。

島原半島地域には、豊富な地質遺産、自然、歴史遺産、あるいは雲仙岳災害記念館や雲仙お山の情報館など多くの施設があるものの、総合的な活用やネットワーク化はまだ十分とは言えない。「ジオパーク」は、それらを訪れる人に総合的に示し、環境への意識を高め、同時に地域の人たちの積極的な参画を促す解決策となりうるかもしれない。雲仙火山という地域住民の生活に長い間大きな影響を与えてきた地質遺産を活用しようというジオパーク推進の試みは、三市、県、民間組織一体となった地域振興のありかたに新しい光を放つことになると考えている。

また、九州には恐竜の化石で有名な熊本県天草市の御所浦、鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島火山、阿蘇や桜島でもジオパークの認定を目指している。大分・鹿児島両県には地熱発電所もある。「別府」など温泉地も数多い。九州自体が「火山と共生する島」としてのジオパークである。このような地域が連携して、「九州火山ジオパーク」構想に発展したら素晴らしい。